写真__1　廿日市市女性連合会大野支部による「大野小唄」「新はつかいち音頭」。 **写真**__2　来場者は1万2千人。大野地域最大のイベントに多くの人が会場を訪れました。 **写真**__3　アイデア満載の丼対決。多くの人が投票し、盛り上げました。

写真__4　ＭＲＣ乗馬クラブによるポニーの乗馬体験は子どもたちに大人気。 **写真**__5　宮工生による建築現場をイメージした巨大オブジェ。高校生が補助しながら通行します。スリル満点で大人気でした。 **写真**__6　防災コーナーでは消防車の隊長席に座ったり、消火器を使ったりと、初めての体験に夢中になっていました。

第32回大野みんなのまつり

夏を迎える熱気と笑顔 活力あふれる地域の祭り

６月14日、15日の２日間、小田島公園で第32回大野みんなのまつりが開催されました。

夏本番を前に、地域を盛り上げようと汗をかきながら担当のブースで働く人たちと、ステージや露店などを楽しむ人たちの笑顔があふれていました。

今年初の取り組みの「そのとき」どうする防災コーナーでは、子どもたちにも防災の意識を持ってもらうための催しが行われました。

また、「大野を元気にする！」をコンセプトにした「大野どんぶり対決」も初めて開催。大野の食材を使ったものや名所をイメージしたものなど、工夫が凝らされた丼が大集合しました。

保育園児から小・中・高校生、そして地域に住む人が創り、楽しむ「大野みんなのまつり」。天候にも恵まれて今年も大盛況でした。

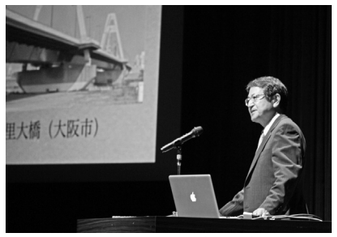
平成26年度土砂災害防止 県民の集い

突発的に襲ってくる 土砂災害に備えて

５月30日、さくらぴあで「平成26年度土砂災害防止県民の集い」が開催されました。

広島工業大学の中山隆弘名誉教授による基調講演や大野第７区自主防災組織会長の山本國雄さんによる７区の自主防災活動の紹介などがありました。

ホールの外では、体験コーナーも設けられ、時間雨量100ミリの雨を体感する小学生の姿も見られました。



写真は、災害に関するさまざまなグラフや、実験の映像などを示しながら解説する広島工業大学の中山隆弘名誉教授。

大野５区自転車乗り方教室

親子で学ぶ、 自転車の交通安全

５月31日、大野５区自転車乗り方教室が５区集会所前児童公園で行われました。

当日は晴天にも恵まれ、５区子ども会育成会の主催で、子どもを中心に約60人の区民が参加。廿日市市くらし安全指導員を講師に招き、自転車の点検の仕方や自転車ルールを学んだ後、公園に設定した基本・技能各コースを各自の自転車で走行し知識・技能を深めました。

縄ばしごを使用した悪路走行では「自転車には乗れるのに、こんなはずではなかった」と悩みながら運転する場面もちらほら。

宮内北山一区防災訓練

防災意識の高い 町内会を目指して

北山一区防災訓練が６月１日、北山集会所で行われました。

訓練は、大雨による土砂災害を想定。地区にサイレンを鳴らし、自宅から集会所に避難するところからスタートしました。

町内会から約70人が参加した訓練では、ＡＥＤ講習や消火訓練、災害伝言ダイヤル（171）体験と３つのブースを体験。防災に対する知識と技術を学び、防災意識を高めました。

訓練終了後は炊き出しで作ったおむすびと豚汁を食べ、地区の絆を深めました。また、訓練の反省を今後の活動に生かしていくそうです。

My Town Topics —まちのわだい— まちの旬な話題を提供します

写真１__宮島工業高等学校の生徒が12人で２週間かけて地元の竹で作ったベンチ。お茶席や木陰などに設けられました。ベンチを製作した建築科２年の山本拓也さんは「一息つく憩いの場になれば嬉しいですね」と話してくれました。 **写真**２__来場者の目を楽しませた色とりどりの菖蒲。 **写真**３・４__６区女性会の皆さんが手作りしたアサリ飯は販売開始から約１時間で完売。 **写真**５__向栄会（こうえいかい）の皆さんによるお茶のおもてなし。

第９回大野菖蒲まつり

あざやかに光を迎える 菖蒲園

６月８日、大野６区永慶寺公園周辺で、第９回大野菖蒲まつりが開催されました。

前日まで降っていた雨もやみ、初夏の太陽の下、15,000株の白や黄、紫色の花が色鮮やかに咲き誇っていました。

大野永慶寺川菖蒲まつり実行委員会の山本博司さん、正司さん兄弟は、「実行委員の７人が主体となり、地域で守り育てている花を多くの人に楽しんでもらえて嬉しいです」と話してくれました。

父の日にバラを　廿日市バラ推進協議会

市民の父、眞野市長に バラの花束を贈呈

父の日の花としてバラを贈る風習にちなみ、廿日市バラ推進協議会の皆さんが６月９日、眞野勝弘市長にバラの花束を贈呈しました。

全国的に見ても品種が多く、品質が良いと市場で高い評価を受けている広島県産のバラ。中でも、廿日市市は「切りバラ」で県内一の生産量を誇っています。徳永和宏会長は、「廿日市市がバラの産地であることをアピールしていきたいですね」と話してくれました。

協議会を代表して眞野市長にバラの花束を贈る竹田智恵さん（写真右）。贈呈されたバラは、６月13日まで市役所１階ロビーに飾られました。

佐伯・浅原出身の浅尾省五さんの写真展

氷の国の天使たちの 心温まる写真を展示

佐伯・浅原出身の動物写真家・浅尾省五さんの写真展「氷の国の天使たち」が、５月23日から６月22日まではつかいち美術ギャラリーで開催されました。

マイナス40度にも及ぶ北極圏・南極圏で撮影されたホッキョクグマ、タテゴトアザラシ、コウテイペンギンの写真約80点を厳選して展示。ほほ笑ましい仕草や表情を生命力豊かに表現した世界に来館者は見とれていました。

作品の説明をする浅尾さん。「生まれ故郷を忘れたことはありません。いつかふるさとで開催したいと思っていました」と、話してくれました。

防災講演会

私たちの命を守る防炎品 身の回りを防炎化しましょう

５月27日、廿日市市消防本部で防炎に関する講演会が開催されました。

講師を務めたのは、日本防炎協会の野田重良さん。火災の原因や亡くなった人の年代など分かりやすいデータを示しながら、「身のまわりの衣類やカーテンなどを燃えにくい繊維を使った防炎品に換えることが、火災の発生や拡大を防止することにつながります」と話しました。

事業所に勤める人や消防団員、自主防災組織のメンバーなど約95人が参加。熱心に講師の話に耳を傾けていました。

第16回はつかいち木工まつり

木のぬくもり、 人のぬくもり

５月25日、木材利用センターで「第16回はつかいち木工まつり」が開催され、約1,000人の来場者でにぎわいました。

特にけん玉の人気は高く、けん玉販売コーナーは朝早くから長蛇の列。けん玉で遊べるコーナーでは、「けん玉ずもう」や「けん玉積み木」で競い合ったりしていました。

また、宮島工業高校の生徒が昨年に引き続き祭りを盛り上げ、子どもと触れ合う姿が見られました。

写真は、積み木コーナーの様子。担当した宮工インテリア科３年生の倉本もえかさんは、「子どもと遊ぶのが好きです」と話してくれました。